

新しい年度を迎えて

今年もまた、新たな生命の息吹を生み出す清々しい季節が到来しました。

新入生や新入社員たちが胸はずませて新たな社会へと飛び立つ季節であり、私たちの周囲にはフレッシュなエネルギーが満ち溢れています。社会人になって長年が経過する私たち大人^{おとな}にとって、この季節は、当時の澆刺とした気持ちを思い出させてくれる機会であり、若さを維持するためにも、年に一度必ず訪れるこの季節を大切に過ごしたいと思います。

ということで、今年もまた、東京道場恒例の花見会を開催しました。場所は、南総里見八犬伝で有名な千葉県市川市の里見公園です。道場の有志がそれぞれ料理やお酒を持ち寄って、楽しい春のひと時を過ごしました。そして、さらに私ごとではありますが、孫がこの4月から幼稚園に通い始めることになっています。彼にとっては初めての社会生活、まさに船出の時期^{とまき}を迎えようとしているのです。



このように「毎年続くこと」と「新たに始まること」が交錯する春は身も心も浮き立たせてくれるとても好きな季節です。

さて、春には、就職したり、入学したり、あるいは進級してクラス替えしたりと、いろいろな年代において新たな組織へと進んでいく門出^{かどで}があります。それは、長い人生において、必ずしも自身が望むものばかりとは限りませんが、多くの場合、「組織は自分自身を成長させてくれる器^{うつわ}」であることを覚えておいてください。例えば、あなたが就職をして、初めての職場でそれまで経験したことのない仕事に就いたとしましょう。その状況はあなたに「新しい出会い」と「新たな能力」を与えてくれるでしょう。そして、そこでの仕事が新しければ新しいほど「新しい能力」が身につく、目標が高ければ高いほど自分自身が「レベルアップ」できるように、組織という名の拘束力が半強制的にもあなたを成長させてくれるのです。良い組織にはそんな不思議な力があるのです。新しい組織や初めての仕事に最初は躊躇するかも知れませんが、勇気をもって飛び込んでみるのが大切です。人生において何度か、このように勇気を試される機会がありますので、そのチャンスを見極めてチャレンジするようにしてください。

元来、人間の身体は楽を求め、心は怠惰^{な怠}へと向かいやすいため、それらの誘惑を抑えて、成長のための厳しい学習やトレーニングを継続することは余程^{よほど}の覚悟と自制心が必要です。そんな人間の弱さをカバーし、成長に向けたプレッシャーを与えてくれるのが組織なのです。だから、皆さんもまた、錬聖会という組織に集い、それぞれ厳しい師範のいる空手道場で練習を続けているのです。

そして、リーダーの皆さんは、「人を育てる組織」を作り出し、できるだけ多くの人にその場を提供する責任があります。逆に、人を育てる能力のない組織、即ち、新しい価値を提供しない、成長のためのプレッシャーもないような組織にしてはだめだ！ということです。さあ、新年度も錬聖会に集う道場生の成長に向けて一丸となって頑張りましょう。

2019年4月1日

日本空手道錬聖会 会長 森 拓生